

talk! talk! talk! 女優・内山理名さん



女優 内山理名さん

演技派女優のひとりとして、実力と人気を兼ね備えた内山理名さん。最近では舞台にも活躍の場を広げ、ますます役者としての輝きが増している。そんな彼女は学生の頃から写真が好きだったという。「今」を切り取る道具として、また自分を表現できるツールとして写真を撮る内山さんの、写真への思い、また楽しみ方を語っていただきました。

プロフィール

1981年、神奈川県生まれ。98年にドラマ「美少女H」（フジテレビ系）で女優デビュー。その後、立て続けにドラマ、映画へ出演し、女優としての地位を確実なものにする。
主なドラマに「なにさまっ！」（TBS系）連続テレビ小説「すずらん」（NHK）「バス・ストップ」（TBS系）「ストロベリー・オンザ・ショートケーキ」（フジテレビ系）「ルーキー！」「ハンドク!!!」「元カレ」（TBS系）「FIRE BOYS ～め組の大吾～」「大奥～華の乱～」（フジテレビ系）「嫌われ松子の一生」（TBS系）「生徒諸君！」（テレビ朝日系）など。
主な映画に「サトラレ」（本広克行監督）「卒業」（長澤雅彦監督）「Jam Films」 「深紅」（野沢尚監督）など。
舞台に「リア王」（蜷川幸雄演出）
現在、日経CNBC「内山理名が往く 歴史ROMAN 産業遺産」でナビゲーターを務める。
4月6日～26日から東京芸術劇場・中ホールにて上演予定、舞台「その男」に出演が決まっている。

Beginning 出会い

母が撮り続けてくれた たくさんの幼い私

写真を好きになったきっかけを教えてください。

昔から自然と写真が好きだったんですが、きっかけをあげるとすれば、母の影響だと思います。母が私の小さい頃の写真をたくさん撮ってくれていて、アルバムが何冊もあるんです。それを見たときに、すごく嬉しくて感激したんです。自分が知ることのない、幼い頃の姿はとても貴重なものですし、撮っておかないと記憶や心に残らないものがあるんじゃないかなと感じて、私も写真を撮りたいと思いました。

「残したい」という思いから撮影を始められたんですね。

そうですね。でもそういった気持ちが強くあったというよりは、潜在的にあって、撮り続けたのは撮影行為そのものを楽しんでいたからだと思います。学生時代は、実家の近くの海や花畑などの風景、それに友だちとの記念撮影ショットもたくさん撮りました。友だちとの写真は今見返すと、すごくはじめてる！という印象で、すごく楽しそうなんですよ。何がそんなに楽しかったのかな？と思うくらいなんです（笑）。

学生の頃のハイテンション感が伝わってくるんですね。

そうですね。はちきれんばかりに楽しそうな雰囲気写真に写っていて、見返すとなんだか恥ずかしくなるくらい。この頃太っていたとか、太っているのにアイス食べてる！なんてその頃の自分に思うことがたくさん出てきますね。でも昔の写真を見ていると、当時はわからなかったものが、今になってわかるということを感じます。

それは、その頃に経験していた楽しさや、嬉しさに気づけるということですか？

はい。そのときは日常的で当たり前だったことの、尊さみたいなものを感じられるようになるんだと思います。

お仕事でフォトグラファーさんと接することも多いと思いますが、その経験から何か影響を受けることはありましたか？

フォトグラファーさんに勧めてもらったカメラを買ったり、撮り方を教えていただいたことはあります。でもフォトグラファーさんが撮る写真と、自分が撮る写真は切り離して考えているんです。もちろん、プロの方の写真は素敵なんですけど、プロはプロとしての目線で撮影をされていて、それは私の目線ではないんですよ。写真は自分の心が写るものだと思うので、フォトグラファーさんのようにきれいに撮ることより、自分が撮りたいものを撮りたいように撮ることを優先しているんです。だから、撮影において影響されたということはありません。

Pleasure 楽しみ

リカちゃん、風景、建築、雑貨まで 被写体は多種多様！

カメラはいつも持ち歩かれているのですか？

はい。デジタルのコンパクトカメラを持ち歩いています。普段は風景や色のあるものを撮ることが多いです。ひとり旅が好きなので、旅先で出会った景色や建築を撮ったり、飛行機の中から空を撮ったり。蜷川実花さんに憧れて、ジュエリーや果物など色のきれいなものを撮ることも好きですね。あとは、テーマを決めてブライス人形やリカちゃん人形をスタイリングして撮影することもあります。

今回お持ちいただいた写真の中にもリカちゃん人形の写真（Photo's6）がありますが、何かテーマがあるのですか？

これはクラブにいるという設定なんです。いろいろなシチュエーションをテーマにして、それに沿った服や小物をコーディネートして写真を撮っています。自分が普段着れないような服を着せるのも楽しみのひとつなんですよ。

こういった写真を撮るうと思ったのはなぜですか？

きっかけは富士急ハイランドのリカちゃん館で、リカちゃん人形の可愛さに改めて出会ったからだと思います。ディスプレイされたリカちゃんを見て、とても魅了されました。スタイリングもリカちゃんの一部もとても可愛くて、童心に返って楽しめたんです。それで、小さい頃は買って



もらえるドレスも限られていたけれど、大人になった今は贅沢にリカちゃんグッズが買える！と思って（笑）。さっそく帰りにお店に寄って、リカちゃん人形や服や小物を買ったんです。それから自分なりにスタイリングを施して、写真に収めるというシリーズを始めたんです。リカちゃんだけでなく、ブライス人形でも同じように撮影しています。

内山さんのセンスが存分に入った写真なんですね。風景写真は海外ですか？

花畑（Photo's1）と羊（Photo's2）と崖（Photo's3）の写真はイギリスに留学中に撮ったものです。郊外の自然に囲まれた街で、窓の外は花畑！とてもきれいな場所でした。朝は花の香りで目が覚めるんですよ。

とても素敵ですね！内山さんが撮影の際に心がけているポイントを教えてくださいませんか？

風景写真はスケール感が出るように、工夫しています。たとえば、崖の写真はイギリスのセブンシスターズという場所なんですけど、とても壮大な景色で、それをあらわすために、人を入れて撮っています。なるべく物の大きさを比較できるものを入れて撮るようにしています。遠近感のある構図も好きなので、京都の写真（Photo's7）線路の写真（Photo's8）などは縦位置でラインを意識して撮影していますね。あと、寄りで物や料理を撮るときは色を一番気にします。色は可愛らしさやおいしさを表現するのに大切だと思うんです。

Photo's 作品紹介

内山さんの目線、心がとらえた 9枚のカット



「幸せな休暇」



「外に一步出たら、雄大な風景が」



「断崖絶壁」



「実物よりきれいに撮れました」



「可愛い！おいしそう！」



「イケイケ！」



「京都のお寺」



「どこまで続くの？」



「ぬいぐるみみたい」

Future これから

仕事はもちろん遊びも真剣に取り組む！



何気ない日常を撮っています。

写真やお仕事に関して、目標や挑戦したいことはありますか？

写真に関しては、ブライス人形、リカちゃん人形の作品シリーズをたくさん撮っていきたくと思っています。いつかアルバムにきちんと収めたいですね。写真は趣味のひとつですが、私は遊びにも真剣なタイプなので、これからも本格的に楽しみたいです。お仕事に関しては、春から池波正太郎さん原作の舞台「その男」に出演させていただく予定なので、それに向けて頑張りたいです。劇中で男女を演じ分けたり、殺陣をするシーンがあるので今からわくわくしています！シリアスな内容ではありますが、コミカルな部分もあって、とても楽しんでいただけたと思うので、私も自分を精一杯出し切って演じたいと思っています。

これからの写真、そして舞台も楽しみにしています！ 本日はありがとうございました。

内山さんにとっての写真とはどのような存在ですか？

「今」を切り取るものですね。写真はそのときの私自身の目線や気持ちをもってして写し出されるものなので、時にも個性にも忠実。やはり写真を撮ることの魅力は、そこにしかない一瞬を残せること、またそれが自己表現にもなるところだと思います。

記録性もあり、自分をあらわす作品にもなるのですね。

そうなんです。絵を描くことが苦手だった私にとって、写真はきれいなものをそのまま形でできるものです。もしかしたら絵が描けないコンプレックスをカバーするように、写真に夢中になったのかもしれませんが、1から作り出すのではなく、選択し、組み合わせて作り出す方法で作品が作れるのが自分に合っている気がします。私はDJをするのも好きなんですけど、いろいろな曲をミックスするときの楽しさに写真は似ているんです。

選択、組み合わせという作業に自分の価値観が反映されているということですね。

はい。自分にしかできないものを作れるのが、とても面白いですね。それに写真には後から見返すという楽しみ方もあります。今は何気なく撮っていても、何ヶ月後、何年後かに見たとき、きっと今では想像がつかない感情が得られるのではないかなと思うんです。だから今は意味をなさない景色も、後々楽しむために撮っているんですよ。最近ではビデオカメラでも、何も考えず、

＞ [コンテンツトップへ戻る](#)

※掲載している情報は、コンテンツ公開当時のものです。